

2. 活動内容

インクル子ども食堂は、参加者が主体的に運営に参加しており、地域の方々、学生ボランティア、参加者の子どもたちや親も一緒に会場の準備をする。食事メニューは、参加者からの要望と栄養バランス、いただいた食材によって決めている（メニュー例※写真1：ごはん 豚汁 豚しゃぶ セロリとさんまのまま炒め 蒸しナス うるいのなめたけ和え カブの浅漬け リンゴ・メロン・さくらんぼ）。また、参加者からの要望により、バイクングや、野外バーベキュー（※写真2,3）なども実施している。食後は、子どもたちは学生ボランティアの学習サポートを受けて勉強をしたり、地域の高齢者と一緒に遊んだり、絵本の読み聞かせや、企業の協力を得てしごと体験など、楽しいイベントも実施している（写真4,5）。子どもたちが楽しい時間を過ごして

いる間、親たちは親どうしの会話を楽しんだり、相談員スタッフに日頃の悩みを相談したりすることもできる。参加者からは、安心して子どもと離れて大人同士で会話できる時間はとても貴重だという声が聞かれた。

また、会場には、制服・学用品リサイクルコーナー、スーツ無料レンタルコーナー、ランドセル提供コーナーを設置している。制服・学用品リサイクルは、参加者からの声から取り組みを始め、盛岡市役所の協力を得て、職員の方々よりたくさんのご寄付をいただいた。

このように、インクル子ども食堂は、食事だけでなく、参加者の様々な声を取り入れて実現し、子どもたちは学習や遊びなど充実した時間を過ごし、大人は日頃の困り事や悩みを語り合ったり相談員に相談することができ、学用品等の各種コーナーを活用することもできるという特徴がある。



「写真1:食事メニュー」



「写真2:バーベキューの様子」



「写真3:バーベキューの様子(スイカ割り)」



「写真4:学習サポート」



「写真5:絵本の読み聞かせ」

「インクル子ども食堂」主なメディア掲載等

・岩手日報(2016年1月8日) <http://incluiwate.blog.fc2.com/blog-category-13.html>
(インクルいわてブログリンク)

※2016年1月30日、2016年2月2日にもインクル子ども食堂の記事が掲載されました

・東洋経済ONLINE(2016年6月4日) 『想像と違った!「子ども食堂」の本当の意義—「子どもの貧困」対策になるか』 <http://toyokeizai.net/articles/-/120355>

・東洋経済ONLINE(2016年6月5日) 『子ども食堂で考える、貧困対策に必要なこと—「困っている人は来てください」とは言わない』 <http://toyokeizai.net/articles/-/120356>

・毎日新聞(2016年8月20日) ・読売新聞(2016年10月21日)

・IBC岩手放送(2017年1月28日15:30-16:00)

『特別番組「いのち。伝えたい」おいで 子ども食堂』

3. 開催の様子

地域の方々、学生さん、子どもたち皆で会場準備をします



当日 頂いた食材をみて 皆でメニューを決めて一緒に作ります



こんな感じです



新しい友達、大学生ボランティア、地域の人との出会い、
子育ての話、悩み相談は尽きません

